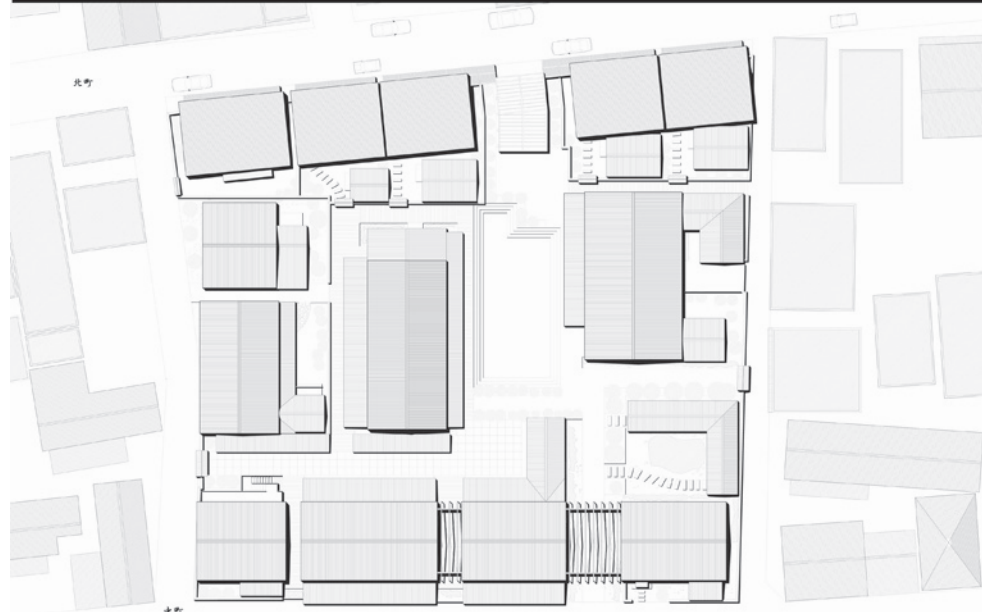


出藍の町 ~伝統産業が繋ぐ町と人々~



地方の町村の若年層人口の流出

伝統建造物保存地域の在り方

かつて藍作で栄えた町は、現在この二つの課題を抱え町の姿を探し続けている。

再び「藍」文化を継承し、新たな創造活動へと導くことが町に活気と明るい未来をもたらすきっかけとなるように。

「青は藍より出でて藍より青し」

伝統の藍産業もさらなる青さと発展を育てていく。



敷地 ~徳島県美馬郡脇町~

過去

徳島県の西部に位置する脇町。一級河川として知られる吉野川の中流域にあり、町の76%が讃岐山地となる山間の町である。徳島を東西に走る街道（奥山道・鳴門道・山田道）と讃岐山地を越え讃岐へ通じる讃岐街道との交点に位置し、古くから交通の要衝として重要視され、中世後期に城下町として町が形成され、吉野川の水運を生かしながら江戸から明治には藍や藍の集散地として栄え多くの商家が存在した。

明治初期は徳島市、鳴門市に次いで3番目に栄えた町であったが、鉄道の開通と共に次第に衰え、古い町家が経済成長期の開発を受けることなく残されている。

現在

昭和59年に脇町の町家地区は「HOPE計画」の指定を受け、さらに昭和63年に「重要伝統的建造物群保存地区」（全国28番目、現在全国62地区）に指定された。

また、徳島道の開通、明石海峡大橋の完成により京都神楽からの観光客も増え、さらに山田洋次監督の映画「虹をつかむ男」の舞台となり注目を浴びている。

そして道の駅「藍ランドだつ」の完成、町家の店舗改装、舗道整備など観光としてのまちなみは新々と計画が進んでいる。

現在脇町は第4次総合振興計画をたて、吉野川や中山間地域のもつ豊かな自然を生かしたグリーンツーリズムの推進や滞在型観光の確立など、まちなみ整備から更に充実させようとしている。

阿波藍の歴史と製造

古くから徳島は藍の産地であり、藍といえど阿波藍といわれるほどであった。藍はJapan Blueと呼ばれ日本のあちこちで用いられる色合いである。藍の町は藍産業で栄えた町であるが今は古くからの藍の町が衰えつつある。

しかしその歴史を継承し藍の町を復活させるべく、現在、藍の世界のファッションショーや学生物のショップは藍の町の名産品やグッズなどが並び、注目を浴びている。

藍による藍産業は若年層を呼び戻すものとして、藍の町が新たな創造活動へと導くものとしてある。

まちなみ

古くは阿波藍で栄えた修験道家の第一集落が阿波藍を奨励し、商人の町として栄えた。藍商人たちは大阪、京都などに店をもち、都の華やかな文化に触れていたため、町にも京風町家が立ち並ぶようになった。集落形態は東西に短冊型に地割りと形となっており、現在は南町が保存地区となっている。通り幅は約4.5メートル、伝統建造物は88棟にのぼる。

特徴として、当時の繁栄を物語る御旗、土蔵造り、しほみ戸などが残されており、この地のアイデンティティの一つとなっている。町家の形態としては上組切造り平入が定型となっており、平面的敷地に対して開口が広く、トオリ窓（土間）の存在や、土間が全面にもまれるなどの特徴がある。土間形式は、土間と接する表側の部屋、即ち「ミセノマ」のあり方と大きな関連をもつ。全般的にみて「ミセノマ」は広く敷敷で、土間側には建具を入れない開放的な構成をもつ。そして正面の瓦は一般に一間以上の長さをもつ。これは京都、奈良等町家と異なり、脇町のように町家が並ぶ例は少ない。通常瓦下空間はセミダブルスペースで、道路の延長として使われていた。また、正面建具をたてた位置は時代経過とともに柱とつぎの一間から柱間へと変わり、柱下の取込みによって公共の場は失われていった。現在は居住者が存在するが空家、空き地も数多くあり方々は人通りも少なく、居住環境という面では課題が多く残っている。

2つの課題

脇町は現在、観光産業への可能性を求め、町並み整備や観光客向けの商店の考案などを積極的に行っている。しかしその結果、表面的な生活圏とかけ離れた町並みになりつつあり、町並みの「博物館化」が懸念される。

他の地方の町村同様、脇町も高齢化、また若年層の町外流出が叫ばれている。流出の大きな原因は就業問題であるといえる。若年層人口の雇用を確保できる産業が現在脇町にはほぼないに等しい。新たな産業創造の確立が必要とされている。

藍産業の確立、町の在り方

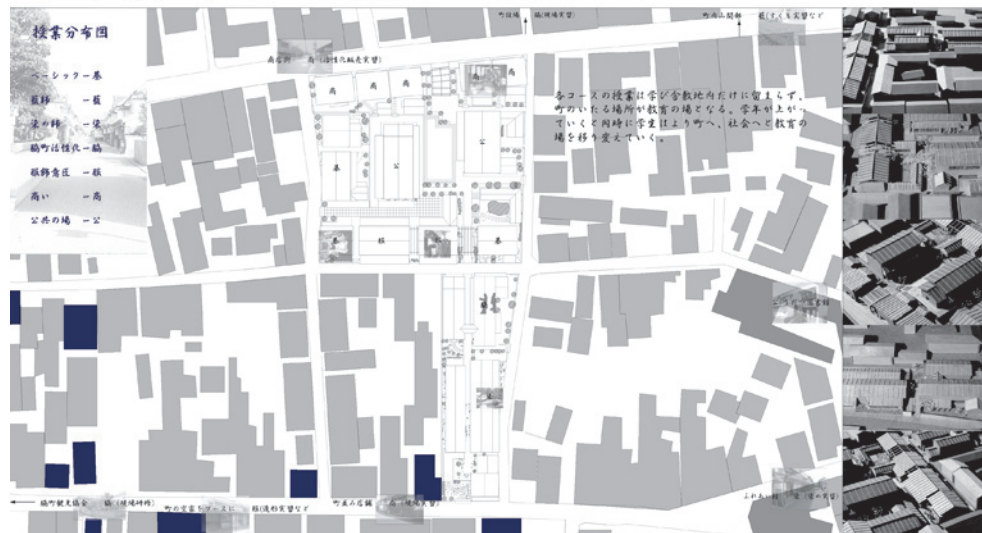
かつて栄えた藍は需要面の問題のため衰退した。しかしもの豊かな町を問う現代で天然の藍が見直されつつある。最近では、藍の世界のファッションショーへの出演や都会のセレクトショップに並ぶなど、若い世代にも受け入れられているものとなっている。藍の色によってデザイナー、バイヤー、マーケティングの基本を学ぶ学び舎は町の産業創造の基盤をつくるものとなる。町にも学生や職師で賑わう主幹道などが行き交い、「見る町」から「使う町」へと変化していく。また観光客には学び舎そのものが大きな展示空間となり、町の本質に触れてもらうことができるようになる。



計画

町一体を教育の場にする

学生の学ぶキャンパスは学び舎だけでなく、町の観光向けの施設も学生の消費額となり、空き家は改修して、学生個人ブースになる。道路は地下であり、商店は倉庫代わりになる。学生は学び、そして「町の季節い」を呼びながら町への愛着心を育てていくのである。



南町



地域住民の生活圏の町としての機能を取り戻す必要性

中町

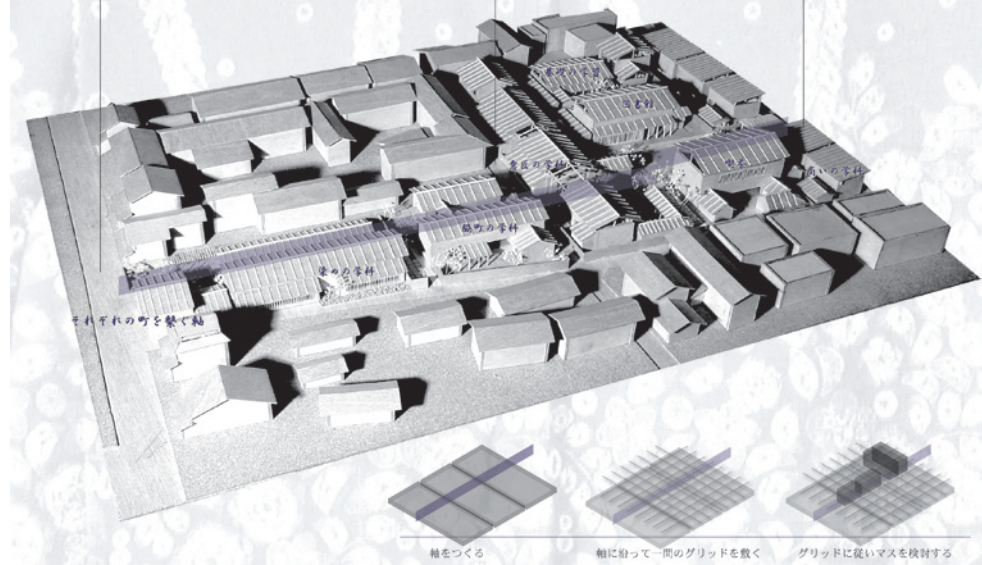


観光化の影響で住民の公共施設が少なく町並みに関する意識が低い

北町



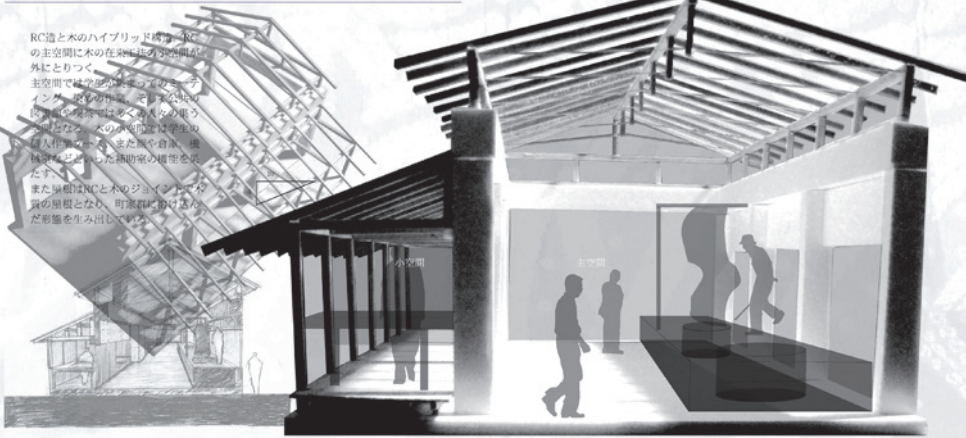
街道沿いのほりついただけの商店街は土地の有効利用が叫ばれている



出藍の町 ~伝統産業が繋ぐ町と人々~

架構

外に



内に



町家の応用、町家との適合

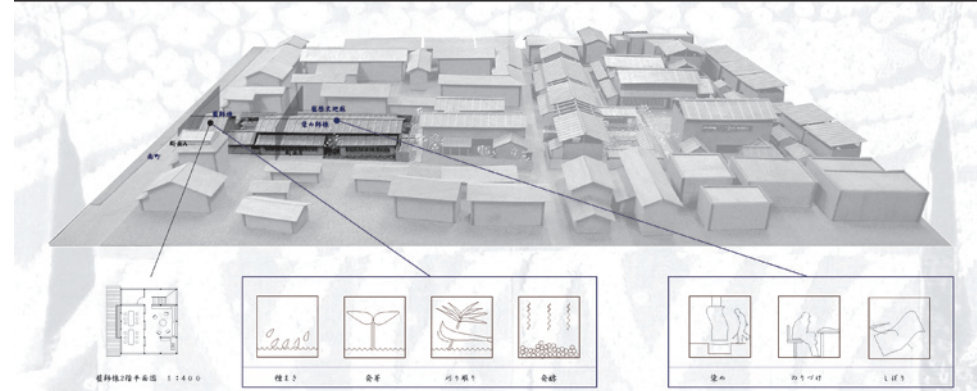


出藍の町 ~伝統産業が繋ぐ町と人々~

藍の学び舎 平面図 1:400



学び舎(各施設)



場面の展開

学び舎の構成は主に町家、日本伝統建築の要素から成り立っている。この構成は特に職人達の体験に作用する。日本伝統の美ゆかりし、創造性をもった建築が学問や作業の場を運ぶ。

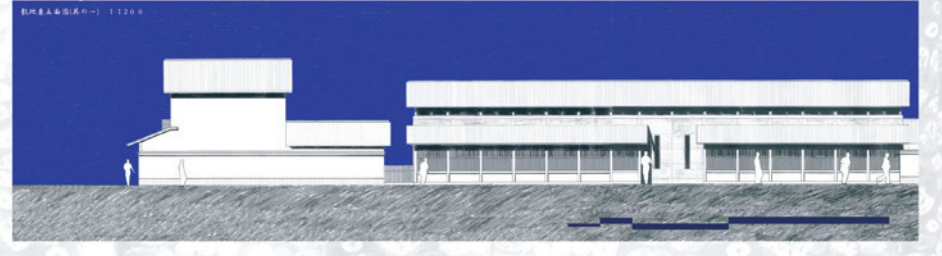


藍師コース

藍染めに必要な染色原料、すくもを栽培する職人を育てるコース。実習が始まるまでは主に町内の山間部が活動拠点となる。現在臨時は第四次総合振興計画下でありその内容中にも畑の有効利用について述べられており、その意味でも藍師を育てることは町の発展に大きな貢献となる。学び舎内での活動は少ないが、藍染業の全ての根拠となるすくも職人、藍師は必要不可欠である。現在臨時に藍師はほぼ存在せず、すくも畑もないが、すぐにの活性化は難しいがいつか必要は必ず抑えるはずである。

染め師コース

すくもを染色原料にして藍染めを行う染め師を育てるコース。染色から模様付け(しぼり)にいたるまで作業を行う。藍の学び舎内の染め師は藍基実習場と並列してあり、観光客には販賣の場となる。また学生達には見られることによって刺激を受ける場となる。染め師は主に染め場と個人ブースからなり、個人ブースはしぼり、のりづけ作業スペースとなる。



学び舎(各施設)

学び舎(各施設)

鳥町コース

鳥町をいかに活性化させるかを考え、役場や観光協会との連携があるコース。鳥町については右に出るものがないほど詳しく、また町をよこよこ変す集団。就職先は町の行政機関となり町の未来をつくりあげる。また、藍の服飾についての企画をつくりあげるのもこのコースである。藍地内の様子は、藍の路に接しており観光客との対話ができる議論の輪が設置されている。そこでは町外からの刺激、意見交換が行われる。

建築カリキュラム	縫製
縫製実習	ファッションショー
藍の視察研究	染め
藍製品企画	ファッションショー
ファッションショー	ファッションショー

染め師コース

染め師コースの生徒たちによって染められた布地を使いながら服のデザイン、パターンニング、コーディネートをするコース。服飾デザインに関する分野は、若者に人気があるが、習うことのできる学校が都市部に集中しており、地方にはあまり根付いていない。したがって町内でデザイン、さらには伝統の産業とを学ぶことのできるこのコースは若者にとって魅力ある学習となる。

さらに、藍地の中央広場ではファッションショーが行われ、作品展示回廊では学生たちの作品が並ぶなど、一般の人々の目におかれる機会も多い。また、コースカリキュラム以外にも一般向けの趣味教室を開講している。

建築カリキュラム	縫製実習
ファッション知識	ファッションショー
ファッション知識	ファッションショー
ファッション知識	ファッションショー

出藍の町 ~伝統産業が繋ぐ町と人々~ 西川正晃

学び舎(各施設)

学び舎(各施設)

高いコース

藍染、染め師、デザイナーとして雨になった藍製品をいかに売るか、またいかに町外へ広めることができるかを研究し、そしてもの流通経済を理解するコース。2年次まで服飾コースとして教育されているため、服飾の知識には長けている。また学び舎内にある藍の事務所は卒業生の就職先としての事務所であり、全国にむけて様々な情報を発信しており鳥町の藍を広める役目を持っている。北町の商店街、南町の店舗とも連携しており、両町での実習が行われる。とくに北町商店街は真冬の一向を歩いているため、どのような解決策があるかを考えることがこのコースの大きな課題である。

建築カリキュラム	縫製実習
ファッション知識	ファッションショー
ファッション知識	ファッションショー
ファッション知識	ファッションショー

出藍の町 ~伝統産業が繋ぐ町と人々~ 西川正晃